

介護サービス経営カレッジ アドバンスコース 事例シート

恐れ入りますが、PDF 形式での提出にご協力をお願いいたします。

◆法人・施設において、法改正対策や、中長期的な視点で取り組んで成功した事例を、それを導入する経緯やメリット(狙える成果)や実施のポイントなどを、具体的に記入してください。

法人名	社会福祉法人 あけぼの会	お名前	渡辺 円香
-----	--------------	-----	-------

事例タイトル	貴重な専門職をフル活用「ZOOM アセスメント」
実践内容	<p><背景ときっかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度介護保険法のキーワード「アウトカム」。「アウトカム」を出していくには、利用者の課題を明確にできるアセスメントや生活の中で活きる実践リハビリが必要。 R2.9.1より、「歩行と言葉のリハビリ空間なごみ横手」として、当法人のリハビリ特化型通所介護2号店を新エリアで OPEN。 新エリアで、「歩行」と「言葉」に特化したリハビリを展開したことで、言葉のニーズが多くあることがわかった。 現在、理学療法士・作業療法士が1名ずつ在籍。言語聴覚士は法人で1名のみで、法人本部を拠点としてリハビリを実施。各エリアを行き来することは難しい状況。 コロナ禍の現在、主流となっている ZOOM を活用し、法人で1人しかいない言語聴覚士の様な貴重な専門職が、評価やリハビリの提供ができないか考えた。 <p><取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> ①新エリアでの言葉のリハビリニーズの掘り起こし 居宅事業所まわりを積極的に行う。ただ自分達の取り組みを伝えるだけではなく、「困っている人達、リハビリを必要としている人達の力になりたい」ということをケアマネジャーに伝える。 ②法人間連携で事前リハーサル ZOOM を繋ぐ等の必要なことは、法人本部のスタッフと協力して環境を整備。スムーズに評価等が進行できる様に、事前にリハーサルを開催。注意点として、言葉のリハビリの為、「声量」「書字の様子」「電波環境」等に留意する。 ③「ZOOM アセスメント」を実施 実際に、顔を見ながら面談・評価を行うことで、言葉の専門職である言語聴覚士がいる安心感に加え、専門的な評価やリハビリが受けられる環境が整っているという印象を利用者さん、ケアマネジャーに持って頂く。専門職にみてもらうことで、どのようなリハビリが必要なのか判断・提供できる。 ④実際に評価場面を担当スタッフと共有することができる 言語聴覚士が実施しているリハビリを実際に見ることで、情報の共有や声掛けのポイントを学びながら実施することで、実際に提供するスタッフが利用者様に質の高いリハビリを提供することができる。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりアセスメントができる環境を整備する為、法人本部のスタッフと事前にリハーサルを行うことで、電波状況の確認や声の聞き取り具合の確認等、課題があった部分を修正することができた。結果、問題なく言葉のアセスメントやリハビリを提供できた。 ・直接専門職より、体験利用時から面談の機会を設けてもらうことで、利用に繋がっている。言語聴覚士に話を聞いてもらった、評価をしてもらったということで安心感を得ながらリハビリができています。 ・専門職がいて直接リハビリに関わることが一番だが、法人に1名だけの言語聴覚士が様々な地域で活躍できるように、言葉で悩んでいる方々がリハビリを受けてこれからも元気に活躍していけるように、あけぼの会として支援する仕組みを作ることができた。
成功のポイント	<p><成功のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職が直接ではなくとも画面を通して、面談して悩みや相談を聞いてくれたことで、専門的なリハビリを提供することができるようになった。 ・配置出来ないからあきらめてしまうのではなく、どうすればより多く困っている人へアプローチができるのか考え、実施することができた。 ・言葉のアセスメントを実施→言葉のリハビリを実施→成果を発表(披露)することで、利用者様の自信に繋がるというプロセスを今後も大事にしていきたいと感じた。
改善への気づき	<p><改善への気づき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、利用者様の目標に寄り添い、リハビリの構成や夢実現の為の取り組みを行うことで自信をつけ、新たな夢や活動意欲の向上につながっていく関わりや取り組みを考えていきたい。
添付資料	※情報交換のより活性のために添付資料をお願いします。